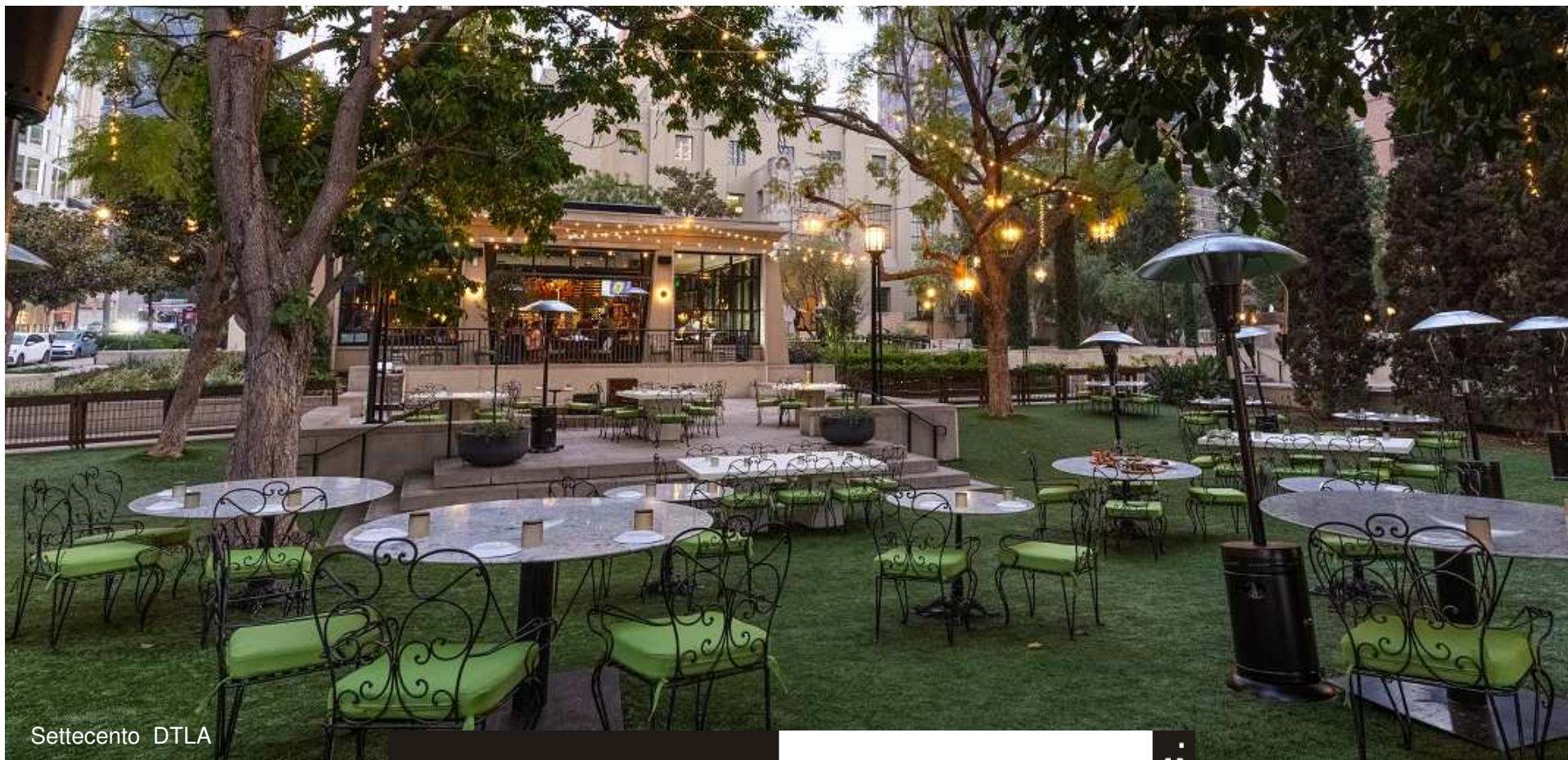




GLOBAL-DINING GZ

決算説明会資料

2024年12月期通期

株式会社グローバルダイニング（東証スタンダード 7625）

2025/2/19

Contents

2024年12月期通期

I. 業績サマリー

• (連結) 決算ハイライト	4
• 会社別実績概要	5
• (連結) 貸借対照表の概要	6
• (連結) キャッシュ・フローの概要	7

II. 事業計画サマリー

• (連結) 2025年12月期 通期計画	9
-----------------------	---

III. 2024年の概況

• 出退店等	11
• 2024年の取り組み (国内)	12
• 2024年の取り組み (米国子会社)	13
• (国内) 業態別業績	14
• (米国子会社) 業態別業績	15

IV. 今後の取り組み

• 2025年の取り組み	17
• 新店概要 (国内)	18
• 新店概要 (米国)	20

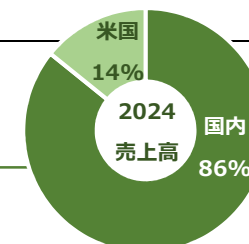
【参考資料】

• コロナ前の2019年からの連結業績推移	24
• (国内) 売上高前年対比率 月次推移	25
• (国内) 客数・客単価の前年対比率 月次推移	26
• (連結) 展開コンセプト	27
• (連結) 売上高・営業利益推移	28
• (国内) コンセプト別 売上高5期推移	29
• (国内) コンセプト別 営業利益率5期推移	30
• (国内) 損益計算書概要	31
• (米国子会社) 損益計算書概要	32
• 2024年12月期 赤字店舗一覧	33
• 会社概要	34
• 注意事項	35

I. 業績サマリー

(連結) 2024年12月期 決算ハイライト

連結



(単位：百万円)	2024年 通期実績	2023年 通期実績	前年対比	2024年 修正計画	計画対比
売上高	11,788	11,090	+6.3%	12,009	▲1.8%
売上原価 ※	9,878	9,282	+6.4%	10,030	▲1.5%
売上原価率	83.8%	83.7%	+0.1pt	83.5%	+0.3pt
販管費 ※	1,156	1,075	+7.6%	1,154	+0.2%
販管費率	9.8%	9.7%	+0.1pt	9.6%	+0.2pt
営業利益	753	732	+2.8%	825	▲8.7%
営業利益率	6.4%	6.6%	▲0.2pt	6.9%	▲0.5pt
経常利益	751	727	+3.3%	814	▲7.7%
当期純利益	514	847	▲39.2%	611	▲15.8%
為替レート (USD/JPY)	158.18円	141.83円		155.00円	

■ 売上高 6.3% 増

国内ではインバウンド需要が堅調に推移したことや価格改定の浸透により客数・客単価が伸び増収

■ 売上原価率 0.1ポイント 悪化

国内は増収となり売上原価は改善したが、米国の減収による労務費悪化や新店費用の影響で連結売上原価率は悪化

※労務費、光熱費、家賃、減価償却費など店舗運営に関わる費用は売上原価に計上。販管費は主に本部経費

■ 営業利益率 0.2ポイント 減

国内は増収増益となったが、米国の営業損失が大きく連結営業利益率は減少

会社別実績概要

国内

(単位：百万円)	2024年 通期実績	2023年 通期実績	前年対比
売上高	10,115	9,330	+8.4%
営業利益	971	786	+23.4%
営業利益率	9.6%	8.4%	+1.2pt
当期純利益	725	889	▲18.4%

■売上高 増収 (既存店+8.6%)

インバウンド好調で権八(和食)が増収(前年比+10.9%)

ラ・ボエムやモンスーンカフェ、ゼストキャンティーナなど、その他の主要業態も増収

■営業利益率 1.2ポイント 増

原材料費高騰の影響、新店費用(那須パラダイスヴィレッジ)の発生、全店キャッシュレス化で信販手数料が増加したが、売上好調で増益。

1月～12月単月でそれぞれ営業黒字を達成。
(例年では1月と2月は閑散期のため赤字傾向)

米国子会社

(単位：百万円)	2024年 通期実績	2023年 通期実績	前年対比
売上高	1,673	1,760	▲5.0%
営業利益	▲218	▲53	-
営業利益率	▲13.0%	▲3.1%	▲10.0pt
当期純利益	▲210	▲42	-

■売上高 減収

ロサンゼルスを経済環境及び店舗のある商業地域の衰退の影響は避けられず、深夜営業縮小やコーポレートイベント減少等の影響で減収

■営業利益率 10.0ポイント 減

既存店減収の影響が大きく、売上原価率は悪化
新店準備費用の計上などもあり、営業損失は拡大

為替レート
(USD/JPY) 158.18円 141.83円

※上記は連結修正前の会社別数値です。

(連結) 貸借対照表の概要

(単位：百万円)	当期末 2024年12月末	前期末 2023年12月末	増減
資産合計	10,234	8,560	+1,673
流動資産	2,043	2,183	▲140
(内 現預金)	(788)	(1,180)	(▲391)
固定資産	8,191	6,377	+1,814
負債合計	4,900	3,972	+927
(内 有利子負債)	(2,360)	(1,722)	(+638)
流動負債	1,833	1,593	+240
固定負債	3,066	2,378	+687
純資産合計	5,334	4,588	+745
資本金	46	44	+1
資本剰余金	2,146	2,144	+1
利益剰余金	2,631	2,117	+514
為替換算調整勘定	460	244	+216
その他	48	36	+11
負債・純資産合計	10,234	8,560	+1,673
流動比率	111.4%	137.0%	▲25.6pt
自己資本比率	51.9%	53.3%	▲1.5pt

■ 流動資産・固定資産

国内好業績の他、設備資金の新規借入を行ったが、設備投資による支出が大きく、
現預金は391百万円減少

国内および米国新店舗の設備投資により、
建物及び構築物(有形固定資産)が大きく増加

■ 流動負債・固定負債

借入返済の他、設備投資のための新規借入を行い、
有利子負債は638百万円増加

国内および米国新店舗の工事支払代金等で、
未払金(流動負債)が大きく増加

■ 純資産

純利益により**利益剰余金が増加**

(連結) キャッシュ・フローの概要

(単位：百万円)	2024年 通期	2023年 通期	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	643	815	▲172
投資活動による キャッシュ・フロー	▲1,676	▲670	▲1,005
財務活動による キャッシュ・フロー	600	▲97	+698
現金及び現金同等物 に係る換算差額	41	24	+16
現金及び現金同等物 の増減額	▲391	72	▲464
現金及び現金同等物 の期首残高	1,180	1,108	+72
現金及び現金同等物 の期末残高	788	1,180	▲391

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

国内好業績の影響が大きく、
643百万円のキャッシュイン

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

国内・米国新店舗の設備投資、
既存店の設備工事で1,676百万円のキャッシュアウト

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

設備資金の為の新規借入、銀行借入の通常返済等で
600百万円のキャッシュイン

Ⅱ．事業計画サマリー

(連結) 2025年12月期 通期計画

連結

(単位：百万円)	2025年 通期計画	2024年 通期実績	増減
売上高	13,480	11,788	+14.3%
売上原価 ※	11,601	9,878	+17.4%
売上原価率	86.1%	83.8%	+2.3pt
販管費 ※	1,252	1,156	+8.3%
販管費率	9.3%	9.8%	▲0.5pt
営業利益	625	753	▲16.9%
営業利益率	4.6%	6.4%	▲1.7pt
経常利益	622	751	▲17.2%
当期純利益	366	514	▲28.9%
為替レート (USD/JPY)	155.00円(予想)	158.18円(実績)	

■ 売上高

【国内】

既存店の増収予想、宿泊複合施設(那須パラダイスヴィレッジ) ※のオープンにより増収見込み
 ※売上高予想 700百万円程度

【米国子会社】

既存2店舗は減収予想、
 新店舗(Settecento) ※のオープンにより全体では増収見込み
 ※売上高予想 766百万円程度 (USD/JPY 155円 換算)

■ 売上原価(コスト)

【国内】

既存店は増収予想だが、昨今の原材料費高騰や人件費増加の影響に鑑みてコストを保守的に見積る
 新店準備費用の計上などもあり、売上原価率は悪化する見込み

【米国子会社】

既存2店舗は減収によりコストが悪化する見込みだが、
 新店舗は2024年度に新店費用を計上していたため、
全店では売上原価率は改善する見込み

Ⅲ. 2024年の概況

出退店等

2024年

■出店 2024年12月23日 日米同時ソフトオープン

国内：『那須パラダイスヴィレッジ』の一部施設

ホテルと権八のプラクティススタート

※2025年3月19日グランドオープン予定

米国：『Settecento (セッテチェント)』（ダウンタウン L A）

※2025年1月23日グランドオープン

■退店 なし

直営店出店2 期末店舗数 国内44 米国3 計47店舗

権八 F C 不変 期末店舗数 香港2 上海1 計 3店舗

2025年予定

■出店 下北沢に『カフェ ラ・ボエム』を出店予定（4Q）

■退店予定 現時点で計画なし

国内

- **全店収益化**

- ✓ 2023年度の赤字店 8 店舗 ⇒ 6 店舗（1 店舗黒字化、1 店舗撤退）

- **競争力強化**

- ✓ ホスピタリティ向上の為に7つの行動指針に絞った指導と営業査察強化
- ✓ 全店キャッシュレス決済化（商業施設を除く）
- ✓ 原材料費高騰への対応
- ✓ 海外現地調達の推進

- **人材確保と教育**

- ✓ マネジメントポジションへの若手からの抜擢や採用の強化
- ✓ 企業理念の浸透と価値観の共有
- ✓ マニュアルのデジタル化や教育動画コンテンツの拡充
- ✓ 各種コンテストの推進やインセンティブ制度の拡充

- **成長投資**

- ✓ 宿泊飲食複合施設『那須パラダイスヴィレッジ』の開業準備
⇒2024年12月23日に一部ソフトオープン（権八、ホテルパラディソ）
- ✓ 都内出店準備（下北沢2025年秋オープン予定）

【2024年の取り組み】 米国カリフォルニア州

米国

● 売上・収益改善

- ✓ 集客増と収益改善の為に業態のカジュアル化（『1 2 1 2』 サンタモニカ地区）
- ✓ 営業体制の合理化による人件費削減
- ✓ 金曜日のライブイベント営業好調により売上増（『ラ・ボエム』 ウェストハリウッド地区）

● 人材採用・教育

- ✓ 日本で実績のある有能な人材の派遣
- ✓ 日本側の緻密な管理体制の導入

● 成長戦略

- ✓ 屋外営業の恒久化の為に環境整備に向けた計画推進（『ラ・ボエム』）
- ✓ 新店舗「Settecento（セッテチェント）」開業準備
⇒2024年12月23日にソフトオープン

(国内) 業態別業績

(単位：百万円)			2024 通期	(利益率)	2023 通期	(利益率)	前年 同期比
ラ・ボエム	14 店舗 (前年▲1)	売上高	2,898		2,688		+7.8%
		営業利益	508	17.5%	375	14.0%	+3.5pt
ゼスト (タコファナ)	5 店舗 (前年±0)	売上高	438		405		+8.1%
		営業利益	50	11.5%	20	5.1%	+6.4pt
モンスーン カフェ	9 店舗 (前年±0)	売上高	2,048		1,901		+7.8%
		営業利益	332	16.2%	267	14.0%	+2.2pt
権八	7 店舗 (前年±0)	売上高	3,294		2,970		+10.9%
		営業利益	860	26.1%	722	24.3%	+1.8pt
Dinner	5 店舗 (前年+1)	売上高	994		933		+6.5%
		営業利益	112	11.3%	113	12.2%	▲0.9pt
那須フードコート その他	3 店舗 (前年±0)	売上高	440		430		+2.2%
		営業利益	36	8.2%	53	12.5%	▲4.3pt
那須パラダイス ヴィレッジ (開店準備)	1 店舗 (前年+1)	売上高	0		0		-
		営業利益	▲78	-	▲0	-	-
本部販管費	-	売上高	-		-		-
		営業利益	▲850	-	▲766	-	-
合計	44 店舗 (前年+1)	売上高	10,115		9,330		+8.4%
		営業利益	971	9.6%	786	8.4%	+1.2pt

既存店：売上高+8.6% 客数+2.2% 客単価+6.3%

■ラ・ボエム

円安による輸入原材料費高騰で大きな影響を受けるものの、価格調整が浸透したことや白金や銀座、麻布十番店の好調により増収増益。

■ゼスト&タコファナティコ

小型タコス専門店が好調で、増収増益。代官山、渋谷、愛知店舗が貢献し、営業利益大幅改善。

■モンスーン

舞浜、代官山などの大型店舗が好調で増収増益。

■権八

西麻布、原宿、浅草などインバウンド需要が好調なエリアのみならず、住宅街立地も好調で増収増益。

■Dinner

レガート、ラウンジ（生演奏&シガーバー）、リグニスが好調を維持し増収となるも、「タブローズ」や「ステラート」の赤字が影響し利益率減少。

■那須フードコート他

那須フードコートは昨年改修工事で休業があった分増収・増益。その他の小売業態の材料費高騰により収益圧迫し、増収減益。

■本部販管費

賃上げによる人件費増加やキャッシュレス決済による信販料増加により費用増。

※店舗数前期末増減

- ・「ラ・ボエムペントハウス」が「ステラート」（婚礼中心）に戻り、ラ・ボエム ▲1 Dinner + 1 に
- ・2023年実績は上記の組み替え済の数値を記載しております。

(注) フランチャイズ店は上記店舗数に含めておりません。

(米国子会社) 業態別業績

(単位：百万円)		2024 通期	(利益率)	2023 通期	(利益率)	前年 同期比
ラ・ボエム	売上高	842		752		+11.8%
	売上総利益	103	12.2%	99	13.2%	▲1.0pt
1212	売上高	825		1,007		▲18.1%
	売上総利益	10	1.3%	94	9.3%	▲8.1pt
Settecento (新店舗)	売上高	5		0		-
	売上総利益	▲110	-	▲22	-	-
本部販管費	売上高	-		-		-
	営業利益	▲220	-	▲224	-	-
合計	売上高	1,673		1,760		▲5.0%
	営業利益	▲218	▲13.0%	▲53	▲3.1%	▲10.0pt
為替レート(USD/JPY)		158.18円		141.83円		

【参 考】 (単位：千USドル)		2024 通期	(利益率)	2023 通期	(利益率)	前年 同期比
ラ・ボエム	売上高	5,323		5,308		+0.3%
	売上総利益	651	12.2%	700	13.2%	▲1.0pt
1212	売上高	5,217		7,104		▲26.6%
	売上総利益	67	1.3%	663	9.3%	▲8.1pt
Settecento (新店舗)	売上高	35		0		-
	売上総利益	▲700	-	▲158	-	-
本部販管費	売上高	-		-		-
	営業利益	▲1,396	-	▲1,585	-	-
合計	売上高	10,577		12,413		▲14.8%
	営業利益	▲1,378	▲13.0%	▲380	▲3.1%	▲10.0pt

■ラ・ボエム

経済環境悪化の中、ガーデンダイニングの魅力維持によりドルベースでは売上高はなんとか微増とするも、ウエストハリウッド地区の人件費高騰の影響により利益率は悪化。連結取込み時の円安進行で円ベースでは増収増益。

■1212 (twelve twelve)

店舗のあるサンタモニカ商業地域の衰退の影響大。深夜営業やコーポレートイベントの減少が響き、大きく減収減益。

■新店セツテチェント (Settecento)

建築工事確認に想定以上に時間を要し、2024年12月23日によようやくソフトオープンとなったため、売上がほとんどない状態の中、先行してオープン準備費用を計上。

【参考】為替の影響を排除したドルベースの業績

IV. 今後の取り組み

【2025年の取り組み】～再成長期に向けた節目の年～

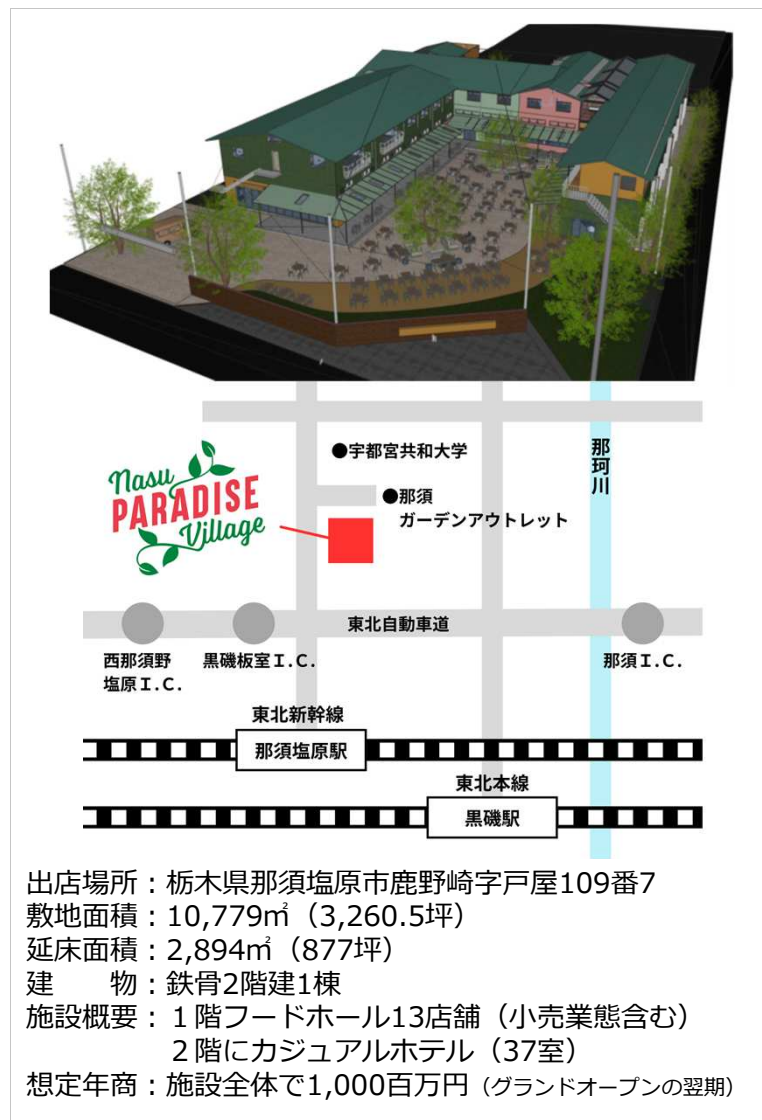
国内注力ポイント

- 全店収益化への取り組み継続
- 新店の立ち上げと早期収益化への取り組み
 - ✓ 『那須パラダイスヴィレッジ』（複合施設）2025年3月19日グランドオープン（予定）
四季折々のイベントを計画し、施設の魅力（エンターテインメント）向上を図る
 - ✓ 『カフェ ラ・ボエム下北沢』の出店準備本格化（4 Qにオープン予定）
 - ✓ 神奈川県にて複数店出店内定、企画着手
- 競争力強化
 - ✓ 地道な品質向上策の継続
 - ・ ホスピタリティ向上施策の徹底
 - ・ サプライチェーンマネジメントの進化
 - ✓ 人材確保と教育
 - ・ トップマネジメント（経営幹部）の意識改革と能力強化
 - ・ 新卒採用の再開
 - ・ アルバイトも対象とした各種コンテストの継続と学べる環境の整備

米国注力ポイント

- 新店『Settecento』の立ち上げと早期収益化への取り組み
 - ✓ 2025年1月23日グランドオープン時のローンチパーティ開催で認知度向上
 - ✓ 空間、料理、サービスが魅力的な店舗づくり
 - ✓ パーティーなどグループ利用客やウェディングの獲得
 - ✓ ガーデンパティオを活かしたアウトドアダイニングの営業を強化
 - ✓ 業務分担の明確化で人件費の合理化推進

■ 2024年12月23日一部施設をソフトオープン（ホテル・権八）



■ 全館グランドオープン3月19日予定



フードホールの客席例

1 階フードホールMAP



【新店概要】 米国 『セッテチェント (Settecento) 』

2024年12月23日ソフトオープン

2025年1月23日グランドオープン

ダウンタウンビル群の中に忽然と現れた
” 緑と光溢れる庭園レストラン”



ロサンゼルス中央図書館を背景に設計された緑豊かな庭園内に建ち、広いプライベートガーデンやテラスが付随した恵まれた立地を活かして、存在感のある空間づくりを目指しました結果、Eater LA, Los Angeles Times, Infatuationなどメジャーな媒体に取り上げられました。

【新店概要】 米国 『セツテチェント (Settecento) 』



ロサンゼルス中央図書館や庭園との調和を意識し、インテリアブックや自然光をふんだんに取り入れた店内

出店場所：700W 5th Street, Los Angeles, California

敷地面積：敷地 6,146sf (173坪) ※ガーデン含まず

建物 4,167sf (117坪) ※1F 89坪、B1 (厨房) 28坪

施設概要：①屋内、②テラス、③ガーデンパティオの3スペースで営業

業 態：イタリアン業態

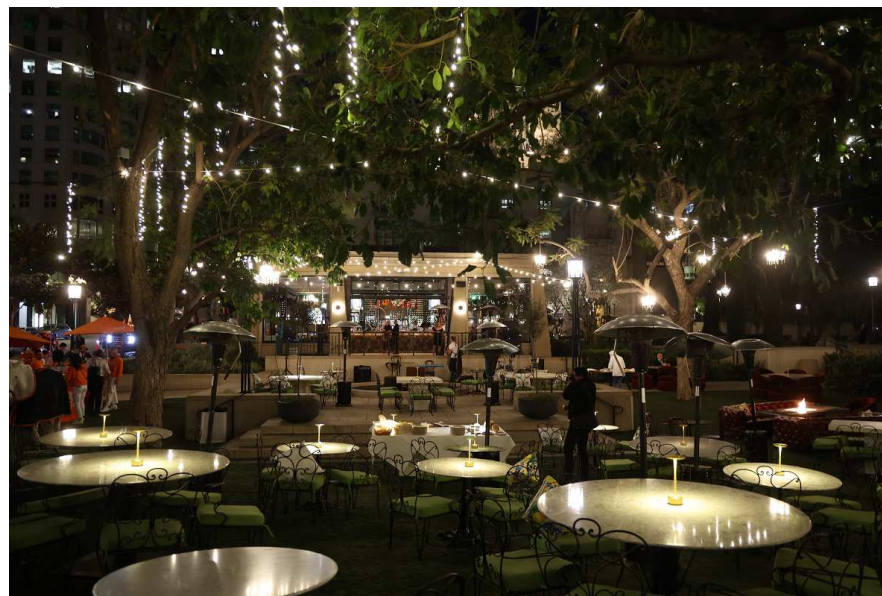
席 数：①屋内66席、②③ガーデン・テラス144席、 計210席

立地特性：ランドマークとなるロサンゼルス中央図書館（駐車場あり）や
私設庭園に隣接、周辺にはオフィスビル、ホテル、高速道路入口あり

※『セツテチェント (Settecento) 』とは所在地の番地の“700”を意味するイタリア語です。



【新店概要】 米国 『セツテチェント (Settecento) 』



1月23日 グランドオープンパーティーの様子

火災で全焼してしまったPalisades Charter High Schoolのチャリティー実施。セレブリティ等を含めた参加者からの募金を寄付。

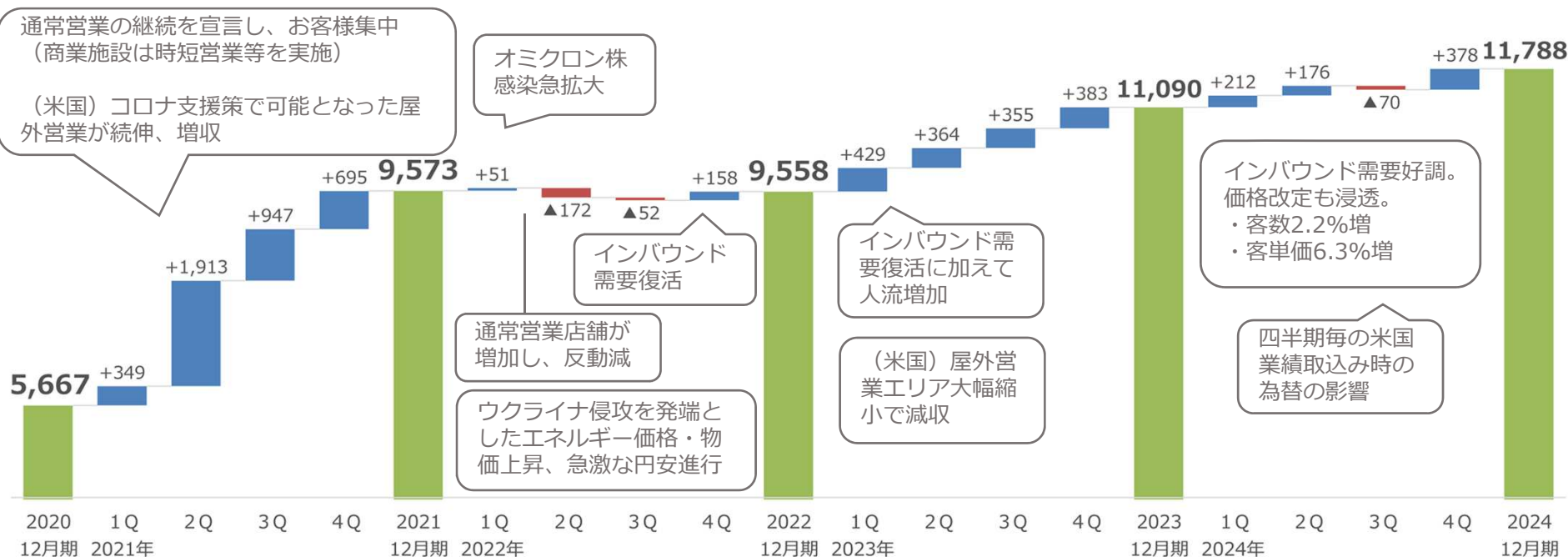
參考資料

コロナ前の2019年からの連結業績推移

連結売上高推移

(前年同四半期増減)

単位 (百万円)



参考：四半期連結業績変動

単位 (百万円)

四半期	2021年12月期実績				2022年12月期実績				2023年12月期実績				2024年12月期実績			
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
売上高	2,047	2,667	2,506	2,351	2,099	2,494	2,454	2,509	2,528	2,858	2,809	2,893	2,741	3,035	2,739	3,272
営業利益	196	263	206	61	▲44	66	▲16	219	74	190	143	323	146	252	141	211
店舗数	43	42	44	45	46	46	46	46	45	45	45	45	45	45	45	47

インバウンド需要消滅

米国屋外営業続伸

インバウンド需要復活

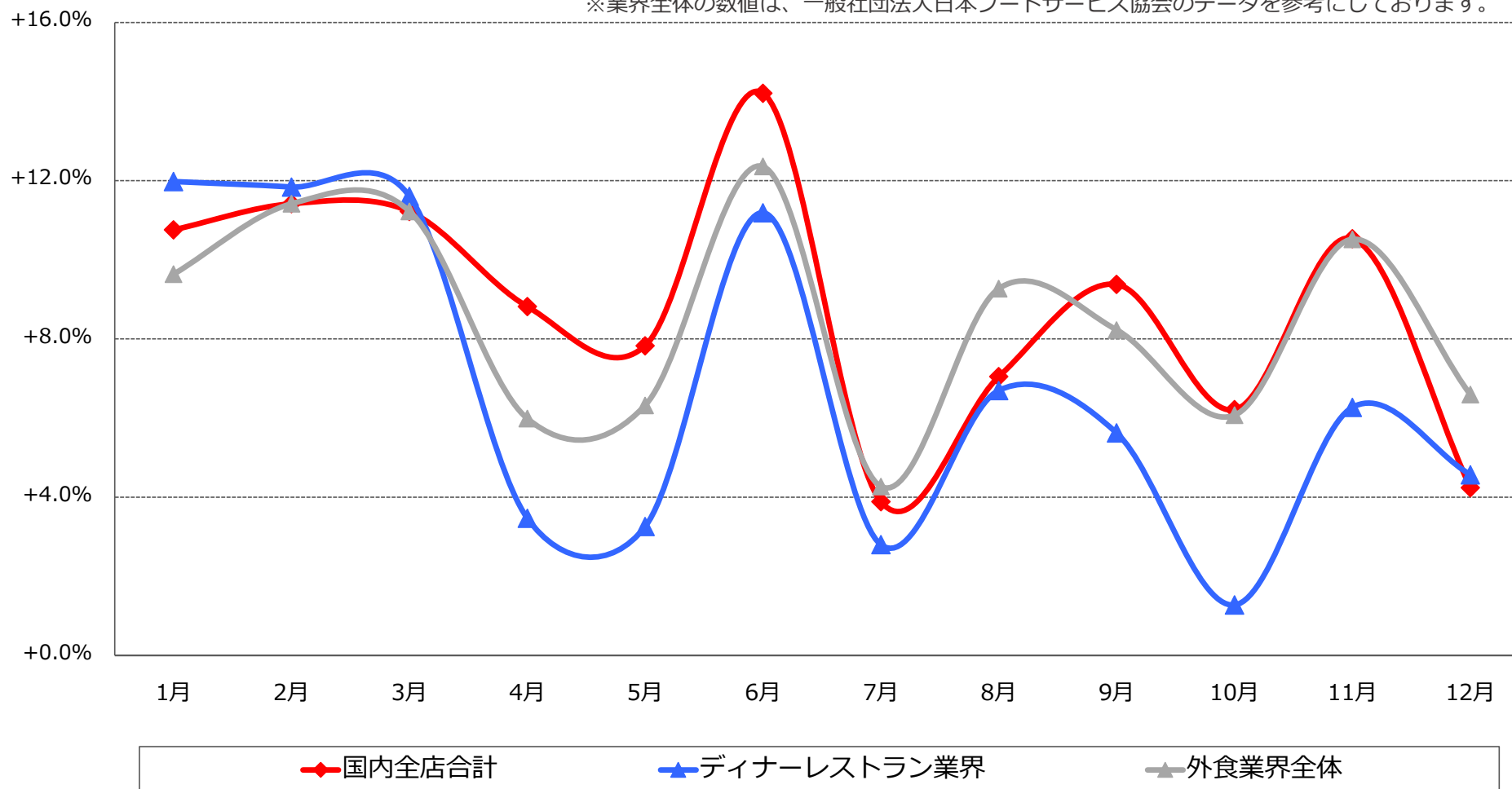
インバウンド需要好調維持

原材料・エネルギー価格上昇

円安進行	換算レートUSD/JPY	115.02	136.68	132.70	144.99	141.83	151.41	161.07	142.73	158.18
------	--------------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

(国内) 2024年 通期 売上高前年対比率 月次推移

※業界全体の数値は、一般社団法人日本フードサービス協会のデータを参考にしております。



2024年12月期 通期 国内店舗売上高前年比

全店 + 8.4%

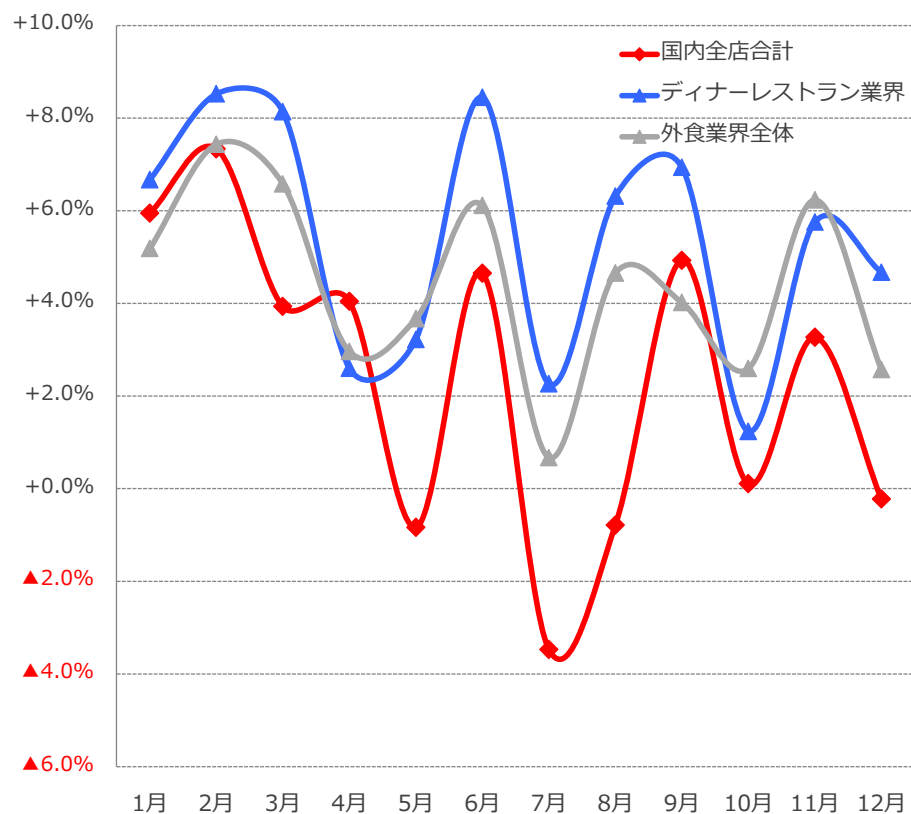
既存店 + 8.6%

2024年 主な出退店なし

※改装や休業等で一定期間稼働のない店舗は既存店より除外

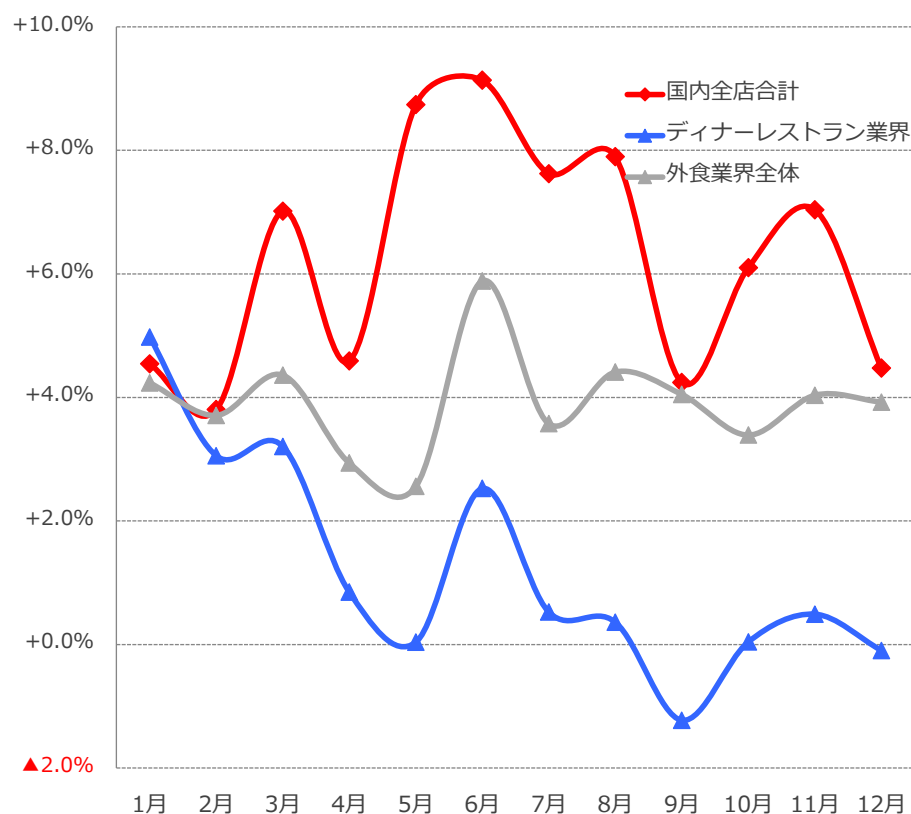
(国内) 2024年 通期 客数・客単価の前年対比率 月次推移

客 数



2024年12月期 通期
全店+ 2. 2%

客 単 価



2024年12月期 通期
全店+ 6. 3%

※業界全体の数値は、一般社団法人日本フードサービス協会のデータを参考にしております。

(連結) 展開コンセプト

計47店舗 (2024.12月末)

カフェ ラ・ボエム	モンスーン カフェ	権 八	ゼスト キャンディーナ	ディナー店	※ F C ・ その他 業 態
   イタリアン	   エスニック	   創作和食 & 寿司	   テックスメックス	      米国	      米国
14店舗	9店舗	7店舗	5店舗	6店舗	6店舗
※ 2,898百万円	2,048百万円	3,294百万円	438百万円	1,836百万円	1,271百万円
※ 25%	17%	28%	4%	15%	11%

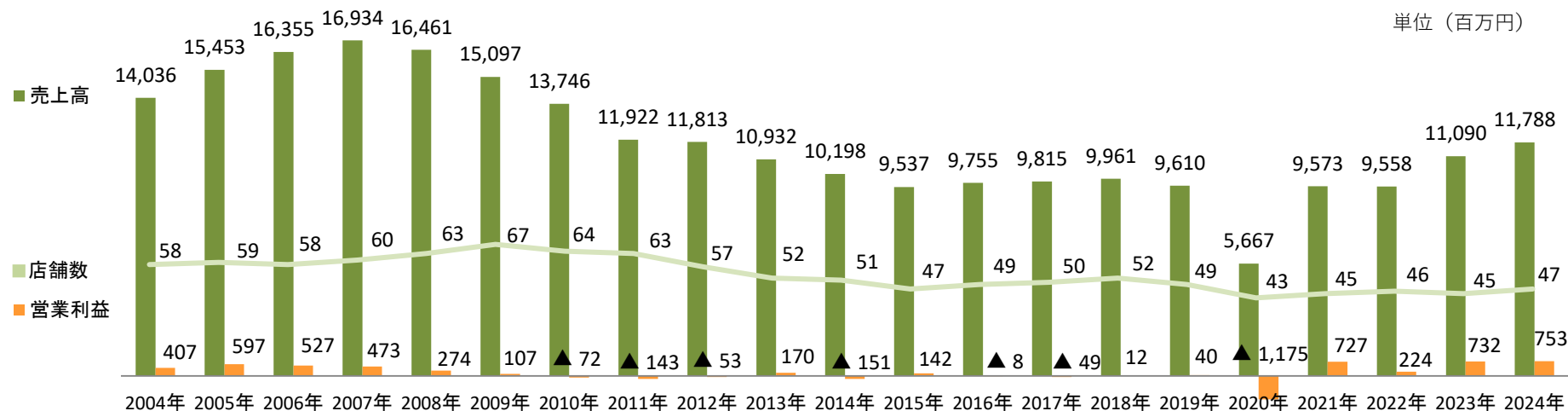
※上記金額&シェアは、2024年12月期の連結売上高とそのシェア(%)を記載しております。

※コンセプトの「F C」は、「FOOD COLOSSEUM (フードコート業態)」の略です。

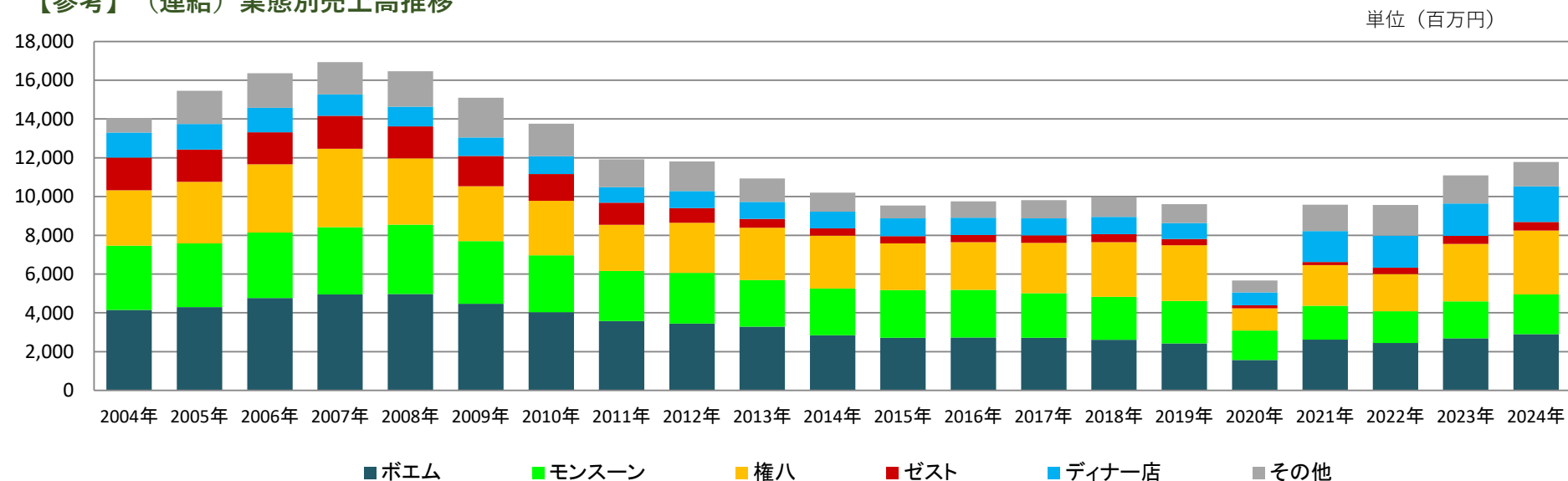
※「F C ・ その他業態」に含まれる「ウエディングサロン」「フランチャイズ店」は店舗数に含めておりません。

★『権八』(西麻布店)は、小泉元総理とブッシュ元米大統領との会談場所として、また映画「キルビル」の舞台のモデルとして、広く外国人に認知されている業態です。

(連結) 売上高・営業利益推移

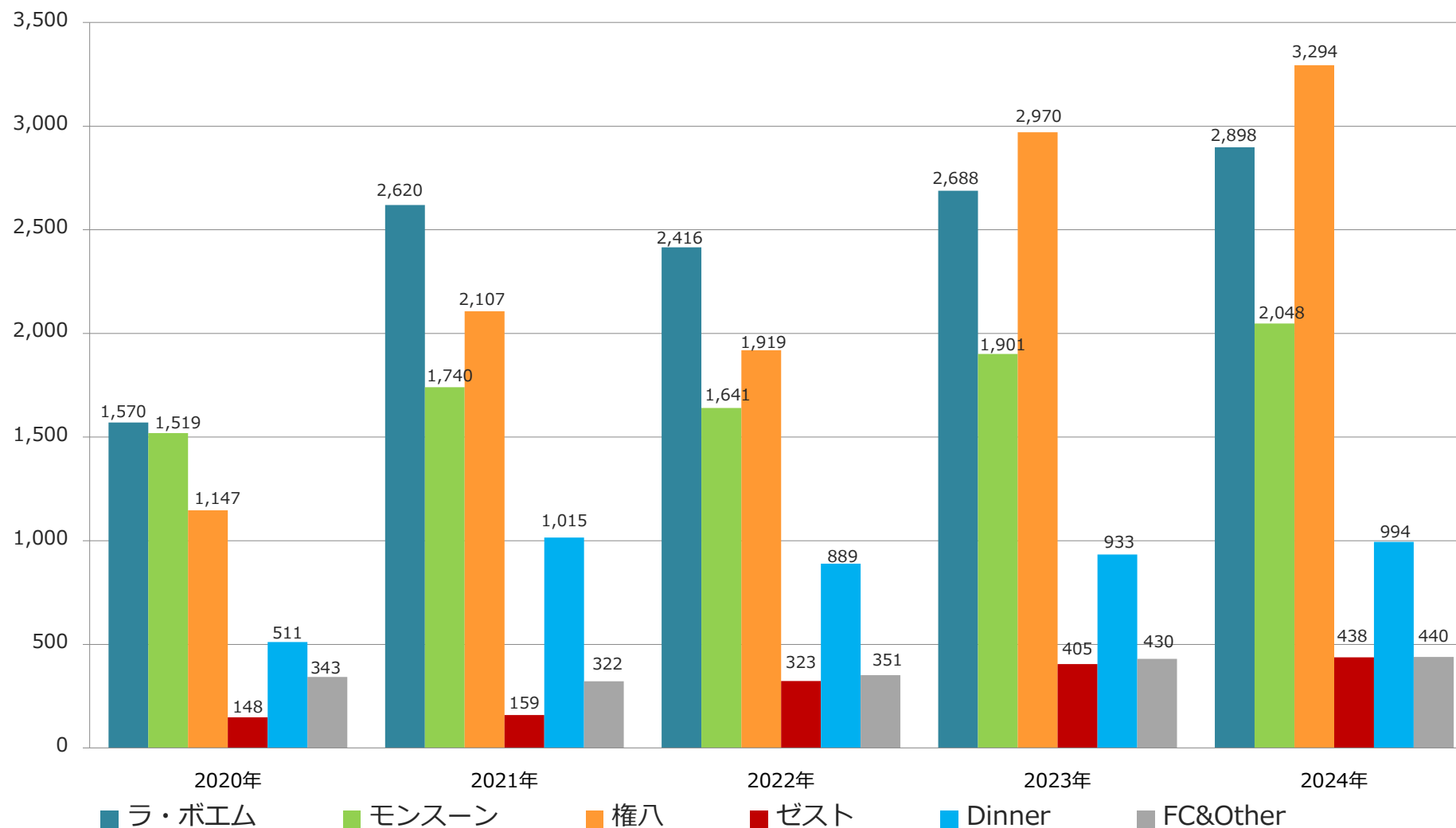


【参考】 (連結) 業態別売上高推移



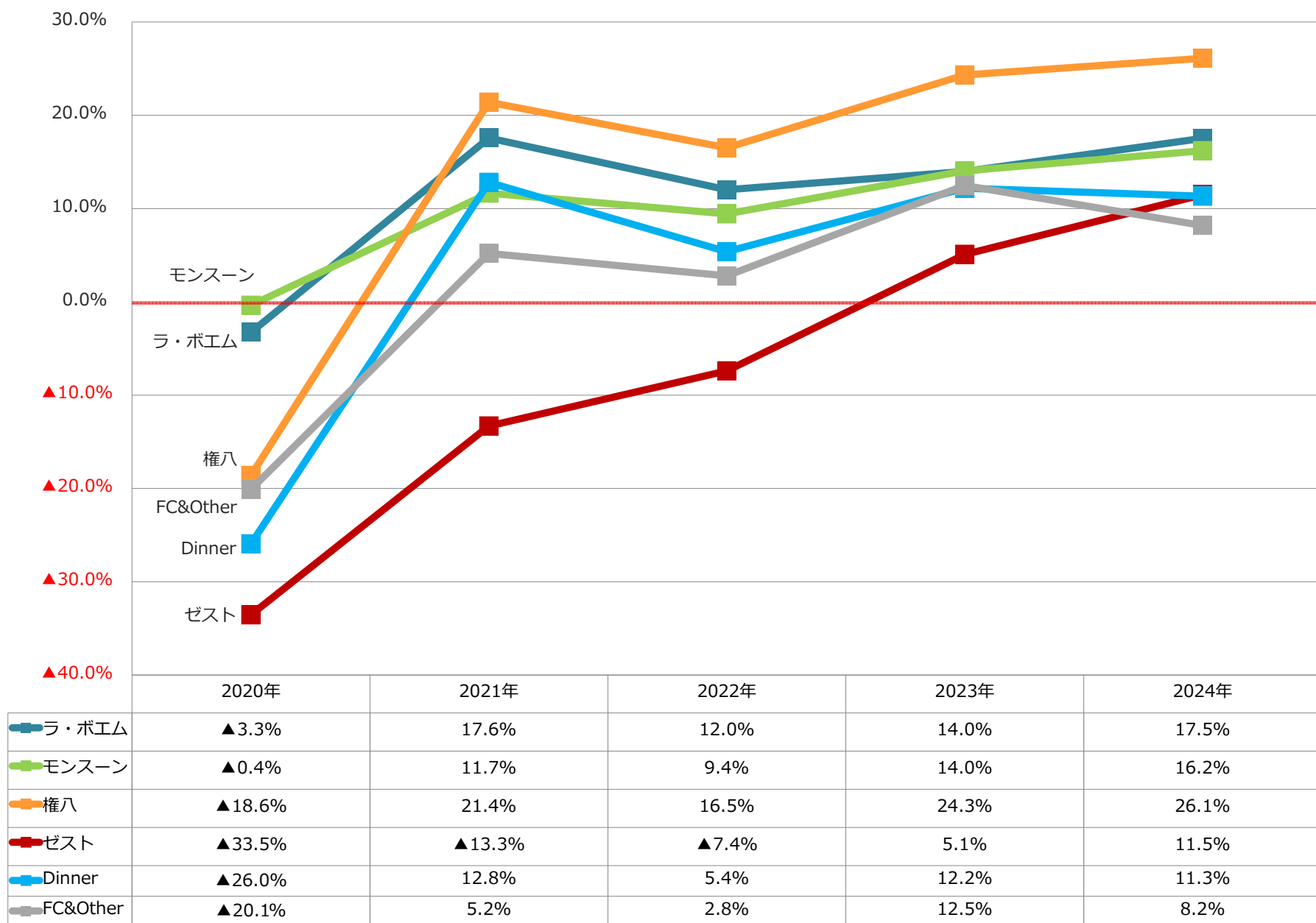
(国内) コンセプト別 売上高 5 期推移

(単位：百万円)



※2023年以前の実績は、2024年実績に合わせた組み替え済の数値を記載しております。

(国内) コンセプト別 営業利益率 5 期推移



※2023年以前の実績は、2024年実績に合わせた組み替え済の数値を記載しております。

(国内) 損益計算書概要

2024年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	ゼスト (タコファナ)	モンスーン カフェ	権八	Dinner	那須フードコー ト・その他	那須PV (開店準備)	本部 販管費
売上高	10,115	2,898	438	2,048	3,294	994	440	0	-
売上原価	8,208	2,353	377	1,689	2,396	879	399	77	35
売上総利益	1,907	545	60	359	897	114	41	▲76	▲35
販管費	935	37	10	27	37	2	5	1	815
営業利益	971	508	50	332	860	112	36	▲78	▲850
営業利益率	9.6%	17.5%	11.5%	16.2%	26.1%	11.3%	8.2%	-	-
期末店舗数	44	14	5	9	7	5	3	1	-

2023年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	ゼスト (タコファナ)	モンスーン カフェ	権八	Dinner	那須フードコー ト・その他	那須PV (開店準備)	本部 販管費
売上高	9,330	2,688	405	1,901	2,970	933	430	0	-
売上原価	7,692	2,266	373	1,600	2,205	814	370	0	62
売上総利益	1,637	422	32	301	765	118	60	0	▲62
販管費	850	46	12	33	42	4	6	0	704
営業利益	786	375	20	267	722	113	53	▲0	▲766
営業利益率	8.4%	14.0%	5.1%	14.0%	24.3%	12.2%	12.5%	-	-
期末店舗数	43	14	5	9	7	5	3	0	-

(単位：百万円)

※Dinner：「タブローズ」「タブローズラウンジ」「カフェ レガート」「リグニス」「ステラート」

※その他：「デカダンスデュ ショコラ」「バルティザン ブレッド ファクトリー」の他、ウエディングサロンの売上高や海外フランチャイズ店からのロイヤルティ収入が含まれます。なお、ウエディングサロンやフランチャイズ店は店舗数に含めておりません。

※那須PVは新店「那須パラダイスヴィレッジ」の略です。

※店舗数前期末増減

- ・「ラ・ボエムペントハウス」が「ステラート」（婚礼中心）に戻り、ラ・ボエム ▲1 Dinner + 1 に
- ・2023年実績は上記の組み替え済の数値を記載しております。

(注) フランチャイズ店は上記店舗数に含めておりません。

(米国子会社) 損益計算書概要

2024年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	1212 (twelve twelve)	Settecento	本部販管費
売上高	1,673	842	825	5	-
売上原価	1,670	739	814	116	0
売上総利益	2	103	10	▲110	0
販管費	220	0	0	0	220
営業利益	▲218	103	10	▲110	▲220
営業利益率	▲13.0%	12.2%	1.3%	-	-

2023年12月期 通期	合計	ラ・ボエム	1212 (twelve twelve)	Settecento	本部販管費
売上高	1,760	752	1,007	0	-
売上原価	1,589	653	913	22	0
売上総利益	170	99	94	▲22	0
販管費	224	0	0	0	224
営業利益	▲53	99	94	▲22	▲224
営業利益率	▲3.1%	13.2%	9.3%	-	-

(単位：百万円)

※上記は業績管理用の決算整理前数値です。

2024年12月期 通期累計 赤字店舗一覧

	店 舗 名	2024年 通期累計		備考
		売上高	売上総利益	
1	ステラート ※旧カフェ ラ・ボエムペントハウス	25,530	▲39,231	※1
2	タブローズ（代官山）	65,937	▲38,908	
3	ウェディングサロン	46,706	▲10,719	
4	モンスーンカフェ ららぽーと愛知東郷	70,126	▲1,823	
5	ラ・ボエム パスタフレスカ RAYARD Hisaya-odori Park（名古屋）	60,149	▲982	
6	バルティザン ブレッドファクトリー（南青山） ※製造部門除く	44,921	▲723	※2

（単位：千円）

会社概要

社 名	株式会社グローバルダイニング（GLOBAL-DINING,INC.）
本 社 所 在 地	東京都港区南青山七丁目1番5号
設 立	1973年10月5日
資 本 金	46百万円
事 業 内 容	首都圏を中心とするレストラン経営及び宿泊複合施設の運営
代 表 者	代表取締役社長 長谷川 耕造
従 業 員 数	単体169名（臨時雇用者753名） 連結187名（臨時雇用者822名）
子 会 社	GLOBAL-DINING, INC. of CALIFORNIA
主 要 取 引 銀 行	三菱UFJ銀行、三井住友銀行、静岡銀行、みずほ銀行、日本政策金融公庫、商工中金

上 場 市 場	東京証券取引所 スタンダード市場【コード：7625】
上 場 日	1999年12月7日
発行済株式総数	10,410,800株 ※2025年1月末現在
株 主 数	3,483名
事 業 年 度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
株式の売買単位	100株

website： <https://www.global-dining.com/>

※2024年12月末時点

注意事項

- ・本資料は情報提供を目的としており、当社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。
- ・本資料における将来に関する事項は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日における仮定を前提としております。
- ・本資料の全部または一部の無断複製や転用等をご遠慮ください。

Disclaimer

- ・ This document is intended to provide information of our company only. This information is not intended to solicit buying or selling our company's stock.
- ・ This document contains forward-looking statements which represent the company's expectations or beliefs concerning future events. The company's actual results could differ materially from those stated or implied in the forward-looking statements herein.
- ・ Please refrain from replicating or diverting this document without prior approval from Global-Dining, Inc.



＜資料に関するお問い合わせ＞
総務管理グループ
(IR) 050-5444-9868
stock@global-dining.com